2021/3/27

(うとQ世話し ニューノーマル考 「裸の王様」)

ニューノーマルを探せ。

「ニューノーマル探索日記」と題して、この稿を起こしてから既に1年と3ヶ月が経ちました。

それで、でしょうか、今ふと、

「ところで、ニューノーマル、ニューノーマルとお題目のように毎回書いているが、そのニューノーマルって、一体何を目安に、又何を想像してそう言っているんだ？自分は」と考え込んでしまいました。

これじゃあ、まるで

「この丘を越えさえしたらその向こうにユートピアが広がっているよ」

とか

「その角を曲がりさえしたら、今迄に見た事もない御殿でのお出迎えが待っているよ」

とか言っているのと変わりが無い気がしてきました。

簡単に言うと一昔前の古びた宣伝手法の広告。

「一粒食べたら、夢の世界」

の様な。

大嫌いだと言っている「その宣伝」もどきを自分自身が行っている。

そう思いました。

それで今度は、例の「行き詰まったら、その正反対を考えてみる」という自分流の方法に従って、未来に向けていた目を180度反転させ、過去に目を向けて、今暫く考えてみると

「ニューノーマルって言い出したのは、ひょっとしたら過去のある時点からが「アブノーマル（異常状態）」だった事の裏返しなのではないか？」

と思い出しました。

なので「ニューノーマルというのはアブノーマルの修正形で、実は「ノーマル（正常状態）に戻せ」と言っている事なのでは」

と。

そう考えてみると、過去のある時点から

人は、生物界等どうでも良くなった。

人は、人の事など「したることか」とどうでも良くなった。

人は、事実実態がどうであっても、それもどうでも良くなった。

その裏返しで

人は、人間界にとっていい事だけを考えるようになった。

人は、自分にとってのみいい事だけを考えるようになった。

そうして

人は、事実実態よりも「記号（価値）、情報（価値）、宣伝（効率効果）」を重視し、踊らさ

れる様になった。

その迷妄が、事実実態を、たまたま隣にいる人（隣人）を、最後は「生物界を含めた地球環境」を浸食破壊してしまった（してきた）

そうして今、我々は、その「アブノーマル」に対して「ノーマル」から「警告」「お仕置き」「逆襲」を受けているのではなかろうか？

とも。

そう考えると、大分分かり易くなってきました。

要するに上述の部分で書いた

「記号、情報、宣伝」

この部分。意図をせず図らずも書いてしまったこの部分。

これは将来に現代の「IT」という言葉に置換える事が出来るのではなかろうか？

と。

その「information（情報） x（と） technology（技術）の持つ意味（位置づけ）と在り方（価値レベルの設定基準）」又はそれが生み出す「格差の是正の仕方」の話だと言う事ではなかろうか？

という気がして参りました。

早い話が「IT様の、持ち上げすぎ」

その結果、信奉者である我々自身が知らぬ間に

「裸の王様」

（価値がある、あるとって着せられているものに何の価値もなく、踊らされていただけ）
になっている様な。